

国語学習プリント 漢文入門

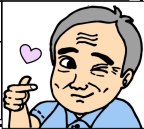
date: 年 月 日

学習内容: 故事成語 - 中国の名言 -

年 組 番

日本語の歴史 漢文

氏名



もともと「やまとことば(和語)」という「話し言葉」しか有さなかった我が国。大陸との交易により、文化や宗教、そして文字という「書き言葉」が伝来してきます。いわゆる「漢字」です。漢字の特徴は、「表意文字」といって、文字そのものに意味を持っていることです。これに対して、西洋の文字は、アルファベット(A・B・C・…)等、記号であって、音を表す「表音文字」ではありませんが、ひとつひとつの文字に意味を持つ「表意文字」ではありません。

漢字という外来の「書き言葉」を日本語である「やまとことば」と融合していったのです。我が国のもっとも古い書物である「古事記」は、日本語の音や響きをそのまま読めるように漢字を当てた万葉仮名で表記されています。同時期に編纂された「日本書紀」は対外的な側面もあつてか、こちらは漢文(中国の言葉)で書かれました。にもかかわらずにも日本の歴史を振り返る上で「書き記して伝える」「書き言葉を持ったのは、このときなのです」。

平安時代になると、これまで万葉仮名であつた「漢字」をくずして、片仮名・平仮名が生まれます。ここから「表意文字」である漢字と「表音文字」である仮名とのハイブリッド化(組み合わせ)による「日本語」が完成形へと向かっていくのです。

さて、ここでは、日本語の基となった漢語(漢文)について学んでいきましょう。教科書では、P126に載せられていますので、あわせて見ていくと思います。

漢文とは次のようなものです。見てわかる通り、漢字だけの文です。この漢字だけの文(「白文」)は、日本語とは文法的にも違うのです。おそらく、漢文を理解するには、日本語として読めるようにすれば、必ずと内容も理解できると考えたのでしょう。漢文を読めるようにするために、「送り仮名」「句読点」「返り点」といった「訓点」を設けました。「送り仮名」は漢字の右下に置きました。これら訓点を配した文を「訓読文」

白文 楚人有鬻盾与矛者
誉之曰
吾盾之堅莫能陷也
又誉其矛曰
吾矛之利於物無不陷也
或曰
以子之矛陷子之盾何如
其人弗能应也

「白文」は漢字だけの文です。この漢字だけの文(「白文」)は、日本語とは文法的にも違うのです。おそらく、漢文を理解するには、日本語として読めるようにすれば、必ずと内容も理解できると考えたのでしょう。漢文を読めるようにするために、「送り仮名」「句読点」「返り点」といった「訓点」を設けました。「送り仮名」は漢字の右下に置きました。これら訓点を配した文を「訓読文」

けました。「送り仮名」は漢字の右下に置きました。これら訓点を配した文を「訓読文」

といいます。

訓読文

矛盾

韓非子

楚人有鬻盾与矛者。誉之曰。吾盾之坚。莫能陷也。又。誉其矛曰。吾矛之利。於物无不陷也。或曰。以子之矛。陷子之盾。何如。其人。弗能应也。

漢字の右横にふられたひらがなは、読みを表す「ふりがな」です。漢字の右下にふられたカタカナは、「送り仮名」です。漢字の左下にふられた符号は、「返り点」です。

返り点の規則

- ◎大前提として上から順に読み、返り点があつたら気を付けるとよい。
- ▽レ点 下の文字から一つ上(すぐ上)の文字に戻る
 - ▽一二点 「一」のついた文字が読めたら「二」へ返る
 - ※上下点(甲乙点)も一二点と同様の規則
 - ※返り点は、言葉のとおり「前へと返る(もどる)」のです。
 - ※「一」「二」「三」まである場合(上中下、甲乙丙)
 - ※先へ飛ぶことはありません。

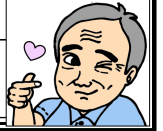
国語学習プリント 漢文入門

date: 年 月 日

学習内容: 故事成語 — 中国の名言 —

日本語の歴史 漢文

氏名



▼ 漢文訓読の練習

例 A B C

順に書き並べてみよう

← A C B

① A B C D

← B A D C

② A B C D E

← A D C B E

③ A B C D E

← A C D B E

④ A B C D E F G H

← B C D A F G H E

⑤ A B C D E F

← B D E C F A

次は実際の漢文でやってみましょう。

「矛盾」のはじめの部分の読み順を数字で右にふってみました。

1 2 8 6 3 5 4 7

楚人_ニ有_リ鬻_ブ盾_ト与_ト矛_ヲ者。

この数字の順番どおりにカタカナでふられている「送り仮名」は「ひらがな」に直しつつ書いていくと、こうなります。

楚人_ニ盾_ト与_ト矛_ヲを鬻_ブ者有_リ。

日本語らしくなったと思いませんか。ただ、難点をというと、「与」のところでしよう。日本語では、「付属語（助詞・助動詞）」を漢字で書き表しません。漢文において付属語にあたる漢字はひらがなに直せばより日本語らしくなります。右の文の場合の「与」は「と」と読むので、ひらがなの「と」にします。

楚人_ニ盾_トと矛_ヲとを鬻_ブ者有_リ。

これで、古の日本語（古文）になりました。この漢字仮名まじりの文の形態を「書き下し文」といいます。このほかにも、「置き字」といわれる訓読の際にも、書き下しの際にも無視して扱う漢字があります。『而』『於』『于』『乎』『矣』『焉』『兮』などです。また『也』も置き字として

扱う場合があります。

これにより、「教科書」によって書き下し文の表記が異なることがあります。どちらの間違いではなく、どう読もうとしているかで変わってくるのです。教育出版社の書き下し文は、つとめて生徒に分かりやすいように難読な漢字もひらがなに直しています。また、

書き下し文

矛盾

楚人_ニ盾_トと矛_ヲとを鬻_ブ者有_リ。之_レを誉_メて曰_{ハク}、「吾_ガ盾_ノ堅_キこと、能_ク陷_スもの莫_キなり。」と。又_タ、其_ノ矛_ヲを誉_メて曰_{ハク}、「吾_ガ矛_ノ利_ナること、物_ニ於_テいて陷_サざる無_キなり。」と。或_ハひと曰_{ハク}、「子_ノ矛_ヲを以_テ、子_ノ盾_ヲを陷_サば何_カ如_シ。」と。其_ノ人_ハ、応_ズること能_ハざるなり。

線部のように読んでいるのは、訓読文の送り仮名を変更し、文末の『也』を「置き字」としたためと思われる。

書き下し文

矛盾

楚人_ニ盾_トと矛_ヲとをひき_グ者有_リ。これをほめていはく、「わが盾_ノ堅_キことよくとほすものなし。」と。また、その矛_ヲをほめていはく、「わが矛_ノ利_キこと、物_ニ於_テいてとほさざるなし。」と。ある人_ハいはく、「子_ノ矛_ヲをもつて子_ノ盾_ヲをとほさばい_カん。」と。その人_ハ応_ズることあたはざるなり。

訓読文

「吾_ガ盾_ノ之_ノ堅_キ莫_ト能_ク陷_ス也。」

置き字

国語学習プリント

故事成語

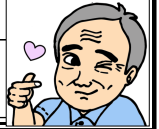
date : 年 月 日

学習内容：故事成語－中国の名言－

日本語の歴史 漢文→故事成語

氏名

年 組 番



書き下し文

矛盾

楚人^{そひと}に盾^{たて}と矛^{ぼこ}とをひさぐ者あり。

これをほめてはいはく、「わが盾の堅きこと、

よくとほすものなし。」と。

また、その矛をほめてはいはく、「わが矛の利

きこと、物においてとほさざるなし。」と。

ある人はいはく、「子の矛をもつて子の盾を

とほさばいかん。」と。

その人応^{こた}へることあたはざるなり。

助長

宋人^{そうひと}にその苗^{なへ}の長^{ちやう}ぜざるをうれ^{うれ}へ、これを

ぬく者あり。

芒^{ぼう}芒^{ぼう}然^{ぜん}として帰^{かへ}り、その人^{ひと}にいひてはいはく、「今日^{こんにち}病^{つか}れたり。予^{われ}苗^{なへ}を助^{たす}けて長^{ちやう}ぜしむ。」と。その子はしりて往^ゆきてこれを視^みれば、苗則^{すなは}ち^ちかれたり。▼ひさぐ(驚^{ひさ}ぐ)

売る

▼いはく(日^ひく)

言うには

▼利^とき

鋭い

▼いかん(如何^{いかん})

「いかにから転じた

どうなるの

▼あたふ(能^{あた}ふ)

できる

▼長^{ちやう}ず

伸びる成長する

▼うれふ(閑^{うれ}ふ)

心配する

▼芒^{ぼう}芒^{ぼう}然^{ぜん}「茫然^{ぼうぜん}」の強意

ぼんやりする

▼…しむ

「使役」…させる。

▽「わが盾の堅きこと、よくとほすものなし。」の意味(訳)

私の(売っている)盾の堅いことと言ったら、突き通せるものはない。

【必ず突き通せない】

▽「わが矛の利きこと、物においてとほさざるなし。」の意味(訳)

私の(売っている)矛の鋭いことと言ったら、どんなものであっても突

き通せないものはない。【必ず突き通す】

▽「子の矛をもつて、子の盾をとほさばいかん。」の意味(訳)

あなたの(売っている)矛で、あなたの(売っている)盾を突いたら、

どうなりますか。

▽その人とは、誰を指すのか。

盾と矛とをひさぐ者

▽応えられなかった理由とは

自分が言ったことに整合性がないと気づいたからなど

▽この昔の出来事(故事)から生まれた言葉と意味

言葉 ← 矛盾^{むじゆん}

・意味 ← (前後の)つじつまが合わないこと

◇宋人がうれたこととは何か。

苗が成長せず伸びないこと

◇予^{われ}苗^{なへ}を助^{たす}けて長^{ちやう}ぜしむ。の意味(訳)

私は苗を助けて伸ばしてやったのだ

◇この出来事から生まれた言葉と意味

言葉 ← 助長^{じよちやう}

・意味 ← 不必要な力添え(手助け)をして、かえって害すること。

もうひとつの意味 ← ある物事の成長や発展を助けること。

国語学習プリント

故事成語

date: 年 月 日

学習内容：故事成語－中国の名言－

年 組 番

日本語の歴史 漢文→故事成語

氏名



☆次の□に入る故事成語を「故事」や「意味」から想像して書きなさい。

推敲

故事 唐の詩人賈島が、「憎推月下門」の詩句の「推」を「敲」にしようかと迷ったことから

意味 詩文の字句を練り、書きなおしていくこと

蛇足

故事 最初に蛇の絵を描き上げた者が、蛇にはない足を描き足してしまったことから

意味 あつても役に立たない余計なもの

四面楚歌

故事 項羽（項王）は漢の兵が四方で楚の歌を歌うのを聞き、漢は楚の地を占領したのかと嘆いたことから

意味 敵中で孤立すること

漁夫の利

故事 シギと貝が争っているとき、通りかかった漁夫（漁師）が両方を得たことから

意味 両者が争っている間に第三者が利益を横取りすること

五十歩百歩

故事 戦の中で五十歩逃げた者が百歩逃げた者を臆病者と笑ったことから

意味 わずかな違いで本質は変わらないこと 大差のないこと

杜撰

故事 杜撰（とく）が作る詩は自由奔放で、作詩の規則を無視したものが多かったことから

意味 著作物に誤りが多いこと やることに手ぬかりが多いこと

守株

故事 宋の国の人々が走って来た兔（うさぎ）が株にぶつかって死んだのを見てそれ以来、働きもせず株の番をしていたが、兔は得られなかった

意味 古い習慣にとらわれて全く進歩のないこと 融通きかないこと

杞憂

故事 杞の国の人々が、天が崩れ落ちてこないかと憂（うれ）いた（心配した）ことから

意味 取り越し苦労をすること 無用の心配

呉越同舟

故事 春秋時代、呉と越の国は敵国だったが、もし暴風（ばうふう）のとき、同じ舟に乗っていれば協力し合うだろうという孫子の言葉から

意味 仲の悪い者が同じ所に居合わせることに

圧巻

故事 最難関の科挙の試験において、試験官が最もすぐれた答案を他の答案を圧（おさ）えるように一番上に置いたことから

意味 全体の中で最も優れているもの

五里霧中

故事 張楷（ちやうかい）が道術（みちづ）によって、五里四方にわたって霧（きり）を起こし、姿をくらまし惑（まど）わせたことから

意味 物事の事情が全くわからず、方針や見込みが立たないこと

竜頭蛇尾

故事 問答（もんたう）をしかけた旅の僧侶（そうりょ）は、偉い僧侶（そうりょ）に対し、「喝（がく）！と何度も返し、偉い僧侶（そうりょ）が、三喝（さんかく）四喝（しやく）の後（のち）はどのようにおさめるつもりかと問（と）うたことから

意味 初めは勢（いき）いがよいが、終わりは振（ふる）るわないこと

危機一髪

故事 文人・韓愈（かんゆう）の「与孟尚書（もうじやうしや）にあたるのしよ」の一文「其の危（あや）うきこと一髪（いつぱふ）の千鈞（せんきん）を引（ひ）くが如（ごと）し」から

意味 一瞬間違（ちが）えば重大な危機（きき）にさらされる瀬戸際（せとぎわ）

一網打尽

故事 供辰（きよしん）が、政府高官一派（いつぱい）の不正（ふせい）をあばき、検拳（けんけん）した際に「われ一網（いつもう）に打ち去（は）り尽（じん）せり」と叫（こ）んだところから

意味 一味（いつい）の者を一度（いちど）で全部（ぜんぶ）つかまえること

千里眼

故事 甘い汁（じゅう）を吸（す）っていた役人（やくにん）の談（だん）「楊逸（やういつ）という長官（ちやうかん）は千里眼（せんりやん）を持つ。何でもお見通（みとお）しだ」と言ったところから

意味 千里（せんり）も先のことまで知（し）ることのできる能力（りよく）

「百聞は一見に如かず」これも故事から生まれた言葉です。

故事としては、「漢の皇帝が漢に従わない異民族の軍勢について老將軍の趙充国（ちやうじゆうこく）にたずねると、趙充国は「百聞は一見に如かず」と老齡（らうれい）にムチ打ち、実際に見（み）に行（い）った。」ことによるものです。

意味としては、「人から何度も聞くより、自分で一度見た方がよくわかる。」というものです。

これを漢文で書くようになります。

百聞不如一見

□に入る故事成語候補

漁夫の利 杜撰 千里眼
四面楚歌 呉越同舟 圧巻
五十歩百歩 推敲 守株
竜頭蛇尾 杞憂 五里霧中
蛇足 一網打尽 危機一髪